



## Bi—skiによる障がい児支援

旭 川 速 水 修

旭川シュプールクラブでは、2016-2017スキーシーズンから旭川市内の小学校の特別支援学級に通う児童を対象に、バイスキーを使用してスキー学習を支援する活動に取り組んでいます。

2017-2018スキーシーズンは、旭川市教育委員会が購入した子供用の新しいバイスキーの活用とシュプールクラブに「ハンディキャップ支援部」を新設し、指導者の養成と研修を行ってきました。そして、スキー学習支援7校、延べ13回、及び幼稚園児、中学生各1名の体験を行いました。

シーズン始めには、市内の特別支援学校がある小学校に、バイスキーでのスキー学習支援の案内をしています。初めての児童や学校については、体験・見学会に来ていただいて理解を深めて頂いております。

スキーは楽しいスポーツですが、一般には危険なスポーツの一つとされています。

私たちは安全を第一に指導しています。万が一の時、スキー学習は学校管理下ですから児童は、日本スポーツ振興センターの災害給付制度が適応になります。指導者は、ボランティア保険に加入しており、私達の活動は営利ではなく、ボランティア保険が適用される活動であるという事です。交通費は市教委が助成してくれました。

バイスキー (bi ski) はその名の通り、二本のスキーが付いているチェアスキーの一種で、いろいろな障害に対応でき安全性、操作性に優れています。パラリンピックやワールドカップで使用される競技用のチェアスキーは、1本スキーで高度のバランスや体力が必要とされます。

障がいの部位や程度は、一人一人異なります。

指導に当たっては、本人の残存機能を可能な限り活かして、体重移動やアウトリガー（ストックの先に短いスキーが付いたもの）の使用などを試み、本人自身がスキーコントロールができるように工夫されています。



バイスキー授業を報じる新聞記事



旭川ろうあ協会に依頼して制作した  
プレゼント用のバイスキーの木製モデル

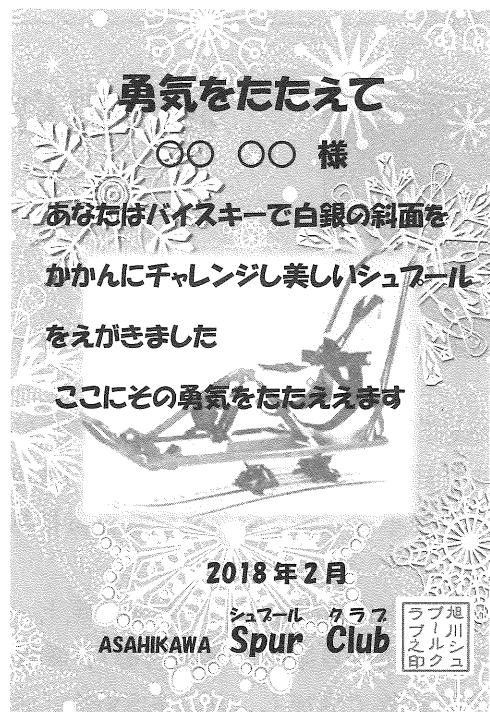
その他に、保温にはキャンプ用の寝袋を改造して利用し、会員から提供されたヘルメットやゴーグル、スキーグローブも準備しています。

駐車場からの移動方法、スキー場の施設内の移動やトイレなど、本人や保護者、学校と十分な打ち合わせも必要です。

一式約60万円もするアメリカ製のバイスキーは、車椅子のように各家庭で持つわけにはいきませんし、操作も訓練が必要です。

スキー学習が行われるウィークデイに活動できる指導者の確保も必要です。

札幌市も障がい児のスキー授業の支援事業を、試験的に開始したと報道されていますが、私達の活動が少なくともスキー学習を行っている学校の障がいのある児童・生徒がスキーを楽しむことができる環境づくりの一助になれば幸いです。



「勇気をたたえて」

この「勇気をたたえて」の証書は、バイスキーを体験した児童に贈られた修了証です。

障がいのある子にとって、寒さ、リフト、滑走のスピード等は、チャレンジそのものです。

まさしくその「勇気」を称えるものです。

実際には、それぞれの子供が通っている学校の校長先生を通して渡していただいています。

道教育大名誉教授

旭川障害者スポーツ協会会長

旭川シュプールクラブ参与



身体障がい児のスキー授業の普及を伝える新聞記事  
(2018年2月11日付け北海道新聞・旭川版)